

# 療護施設職員リレーエッセイ

みんなに伝えたい

## わが家づくり



岡村 理佐

高知県・オイコニア

「あなたは選択食のメニュー作りが出来ますか？」これはオイコニア開設にあたっての採用試験の時、施設長からの私への質問です。この質問から私の施設栄養士としての仕事が始まりました。

その頃私は現場中心の栄養士として病院で勤務していました。地元への帰省を望んでいたために受けた採用試験で、もちろん私は「はい、努力してみます。」と答えました。採用されたいばかりに何も考えず当たり前のように答えました。後でどんなに苦労するのか自分の身の程も知らないで…

その当時、全食選択食といっても県内で行っている施設は無く、いくつか先輩施設を見学させてもらったものの、なかなかイメージがわからず、いったい何をどう始めればいいのか？私みたいな経験の浅い栄養士にそんなことできるのだろうか？と一人の職種ゆえ誰にも相談できず不安で悩む毎日を送りました。

ただ私の中でその不安に立ち向かえる勇気が持てたのは、施設長の施設づくり（わが家づくり）の理念に感銘を受けたからです。“わがままを言える施設を創ろうよ”“自己選択できる施設を創っていこう”“お仕着せの食事はやめよう”。今まで福祉についてじっくりと考えたことのない私にとって施設（集団）生活での辛さ、苦しさ、淋しさを目の当たりにした時でした。

私の目指すもの、それは単純にご利用者に喜ばれる食事作りです。

オイコニアでは開設当初から毎日、毎食が選べるカフェテリア方式での食事の提供をしています。今までたくさんの施設の方が見学に来られました。素直に感動して下さる方、うちでは無理と否定される

方、健康（栄養）管理は大丈夫なの？と疑問を持たれる方、いろんなご意見をいただきました。実際行っている私でさえ「これで本当にいいのか？」と迷ってばかりです。

ただ10年間の経験の中で、ご利用者の喜びの声を何度となく聞くたび私も共に喜びを感じ、仕事にやりがいを持っているのは間違いのない事実です。

しかしオイコニアでの選択食には将来に対する問題もかかえています。長い施設生活をしていく中で、ご利用者の機能低下は避けられない現実です。実際、開設当初より選択食を利用できる方は減ってきています。いつまで今の食事の提供がベストなのか…。ご自分で食事の出来ない方への食の豊かさをこれから先もっと追求していかなくてはなりません。ケアワーカー、看護師あらゆる職種と連携して安全でおいしい食事の提供が今まで以上に必要になってくると考えています。

たくさんの制約と我慢のある集団生活の中で、どれだけご利用者本位の生活をしていただけるのか。毎日、毎食選択食を実施していても50人お一人おひとりに満足していただけるのには限界があります。（やはりそこにはご利用者の我慢があると私は考えています。）日々の暮らしの中での集団生活の限界をどれだけ取り払えることが出来るかが私達施設職員のゴールのない課題のような気がします。

毎日忙しく仕事に追われ、振り返る間もなく過ぎた10年間ですが、一瞬でも多くご利用者と共に喜びを感じ合える日がこれからもたくさんある事を信じてオイコニアのスタッフとして頑張っていきたいと思えます。